

報道各社 各位

## ご連絡

平成29年9月25日

嶋田 幸司

### 前略

平素は当職の活動に対し格別のご配慮を賜り誠にありがとうございます。

さて、当職の自民党籍にかかる一連の経緯等について報道に一部不正確なところがありますので訂正をお願いすると共に、最終的な結論についてご報告致します。

当職は、平成29年8月末日付で、旧「自民党三重県第三選挙区支部」の支部長を退任し、同年9月1日付で「自民党三重県衆議院支部」の支部長に就任致しました。衆議院の選挙区支部である第三選挙区で活動を行ってまいりましたが、三重県の衆議院選挙区が減少することに伴い当職が新「自民党三重県第三選挙区支部」の支部長に留任することができなかったことはご承知のとおりです。手ごたえを感じつつある中での退任は大変不本意で悔しい思いをしましたが、その後気持ちを新たにし、8月、当職に対する自民党三重県連の「最大限の処遇」として県連より提案された「自民党三重県衆議院支部」の支部長をお受けすることにしました。「自民党三重県衆議院支部」の位置づけは、三重県に4つある選挙区支部を後方支援するというもので全国的にも例がないと聞いております。県連から提示頂いた際、後方支援とともに、当職個人の政治活動は制約されないとの説明がありました。

しかしながら、「自民党三重県衆議院支部」の支部長に就任した9月1日の直後、ポスター掲示等個人の政治活動は自粛するように県連から伝えられました。これらの状況からこのまま自民党には個人の政治活動ができなくなることが大いに危惧されたため、一旦無所属になって活動を再開しようとの思いに至りました。そのため、同月13日、「自民党三重県衆議院支部」の支部長の辞任届と自民党の離党届を県連に提出致しました。もっとも、これらの届け出は受理されず幹事長預かりとなりました。

ところが、無所属になって今までは参加できなかった他の保守系団体の勉強会等に参加し、見聞を広めようと思っていた矢先に、いわゆる解散風が吹き始め、他党からの出馬が取り沙汰されるようになりました。このような中、同月22日、三ツ矢県連会長を訪問した際、自民党に残るよう慰留していただき、自分自身納得することができたため、自民党に残ることを決断し、同月24日、離党届を取り下げました。今後は、来るべき衆議院選挙に向けて、県内の候補者を全面的に後方支援する所存ですので、引き続きご理解を賜りますようお願い申し上げます。

草々